

人生ハンド仏句

第132号

H. 25. 3. 1

(毎月1日発行)

美空ひばりと日蓮宗

住職 谷川寛俊

昭和六十三年四月十一日、満員の東京ドームで「不死鳥ひばり」をアピールし、昭和の歌姫、美空ひばりのコンサートが開かれました。

このコンサートがひばりさんの最後となりましたが、この会場にひばりさんの実家で、加藤家の菩提寺の住職、菅野海城上人（横浜市港南区唱導寺）の姿がありました。

菅野上人は私の大先輩に当たる人で、過日ある会議で久降りにお会いし、このお話をお伺いしました。

菅野住職はひばりさんの容態を知っておられたそうです。心中「何とか最後まで歌ってくれれば……」と

いう思いでいっぱいであつたそうです。しかしその心配もよそに、さすが日本を代表する歌手、ひばりさんは見事に歌い上げられたのでした。しかし翌年六月二十四日、五十四歳という若さで不帰の人となられたのでした。

ひばりさんとお題目の出会い、昭和三十八年二月のこと、父加藤増吉さんの葬儀を縁として、日蓮宗のお寺（唱導寺）を菩提寺としたからでありました。ひばりさんの妹がお題目信仰のあつた家に嫁ぎ、姉ひばりさんにお題目信仰を薦められたそうです。

そして母、喜美枝さんが昭和五十六年七月二十九日にお亡くなりになりましたが、他界する前、ひばりさんが菅野住職に懇願されたことがあります。それは病に倒れ、昏睡状態にあつた母の病床で「是非、闘病平癒のお経を上げてください」ということでした。病院での読経に、住職ははじめ躊躇（ち

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

ゆうちょ）しましたが、ひばりさんの願いを快く引き受け、そして病室に入り、洋服の上から僧衣をまとい、隣室に響かないようにお経を読み、お題目を唱え始めると、ひばりさんも母親の手を握りながら美しい声でお題目を共に唱題されたそうです。そのお蔭で主治医の見立てより三か月長く寿命を戴き、六十九歳で他界されたのでした。

その母親の逝去から二年後と五年後に第二人（哲さんと武彦さん）が共に四十二歳の若さで亡くなられ、住職は毎日目黒にあるひばり邸へ御回向にお伺いするたび、ひばりさんは必ず後ろに座って読経・唱題されたそうです。

そしてお経が終わって住職とお茶を飲みながらお話をするのを楽しみにされていました。ある時、菅野住職に「何故、私の身内ばかり不幸が起こるのでしょう」と尋ねられたそうです。

住職は「不幸はあなたばかりではありません。

ません。そういう不幸な人達に励ましの歌を贈るのが、ひばりさんの役目です。」と伝えられたとの事です。改めて、ひばりさんの歌声が心に響く歌なのだと思ひ知らされました。そして、美空ひばりという人間像を垣間見ることが出来ました。



お知らせ

◎春季お彼岸法要

・三月二十日（水）

・午前十時半

・午後一時

お給仕・お護当番は、東布施・

若栗地区の方々です。

どうぞ宜敷くお願いいたします。

◎端彼岸

・三月二十三日（土）

・午後一時半

お参り終了後、皆さんでぼた餅を頂きましょうね！



東日本大震災第3回忌

法要並檀信徒研修会

・日時 平成二十五年三月十日

午前十時～午後三時半

・場所 富山 大法寺

演題

「なぜ法華経でないと

いけないか」

講師

魚津・真成寺住職

谷川寛俊先生

※参加申し込みは、真成寺まで。



身延山団参お疲れ様でした。
全国青年僧侶のみなさんと御廟所にて、参拝。

◎水子供養会

・毎月十三日

・午後一時半～

◎唱題行脚

・毎月二十八日

・午後一時半より三時半頃まで

先月の参加者

谷川寛敬・伊藤宗治・土居可久子・

谷川まり子・高円富美子・谷川久仁子

全日本プロレス開幕戦

今年もやって来ます

いい席は、お早めに！

真成寺までお申込み下さい。



とき……3月30日（土）

試合開始……午後6時

場所……魚津ありそドーム